

2018 食物科栄養士コース
履修系統図

食物科栄養士コースのディプロマポリシー

人間性と品格を備えた社会人として行動できる。	栄養士に必要な基礎的・専門的な知識や技能を身につけている。	栄養士の業務に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、コーチング能力を身につけている。	現代の食に関わる様々な課題を発見・理解・分析し、解決に取り組むことができる。	学修経験をもとに、目標とする栄養士像に近づくために自身を向上させることができる。
------------------------	-------------------------------	--	--	--

セメスター到達目標	カリキュラムポリシー (教育課程編成の方)	<p>1 社会人としての教養(基礎知識)を高めるために、全学必修の「茶道文化」「社会人基礎入門」を配置する。 他者を理解し、尊重することができる社会性を養うために学科の専門科目内のグループワーク型授業を配置する</p> <p>2 栄養士に必要な専門知識を習得するために栄養士養成規定科目を配置する</p> <p>3 栄養士の業務に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、コーチング能力を高めるために、「給食の運営」、「栄養の指導」に関する科目を配置する</p> <p>4 食と健康、食とスポーツ、食とライフステージに関する課題解決能力を高めるために「栄養の指導」、「スポーツ栄養」、「栄養と健康」に関する科目を配置する</p> <p>5 学修体験を統合するために、「総合演習」、「栄養士実務技術演習」を配置する</p>
①栄養士に必要な知識を統合できる。 ②食に関わる問題を分析し、解決することができる。 ③栄養士としての倫理観・社会貢献を理解している。 ④栄養士として活躍するために生涯にわたり学ぶ姿勢を身につけている。	2年後期	<p>発展</p> <p>総合演習C</p> <p>公衆衛生学</p> <p>運動生理学</p> <p>スポーツ科学</p> <p>食品衛生学実習</p> <p>調理学実習IV</p> <p>社会福祉概論</p> <p>スポーツ栄養学実習II</p> <p>公衆栄養学</p> <p>学外実習I・II</p> <p>給食経営管理実習I・II</p>
①栄養士として必要な実践的知識・技能を身につけている。 ②対象者に正確な情報を的確に伝えることができる。 ③他者と協調・協働することができる。 ④栄養士に必要な知識・技能を活用して課題を発見し解決することができる。	2年前期	<p>専門</p> <p>総合演習B</p> <p>学外実習事前・事後指導</p> <p>食品衛生学</p> <p>学外実習事前・事後指導</p> <p>応用栄養学</p> <p>臨床栄養学各論</p> <p>応用栄養学</p> <p>コンピュータ演習II</p> <p>調理学実習III</p> <p>栄養指導論II</p> <p>スポーツ栄養学実習I</p> <p>臨床栄養学実習</p> <p>応用栄養学実習</p> <p>栄養指導論実習II</p>
①食品・栄養・人体に関する応用的知識を習得している。 ②自分の考えを他者に伝えることができる。 ③他者の言葉や気持ちを理解し、思いやりを持った行動ができる。 ④食品・栄養・人体に関する基礎的知識を応用できる。	1年後期	<p>基礎・専門</p> <p>総合演習A</p> <p>食品学II</p> <p>解剖生理学II</p> <p>臨床栄養学総論</p> <p>スポーツ栄養学</p> <p>英語コミュニケーションII</p> <p>栄養指導論実習I</p> <p>食品学実習</p> <p>解剖生理学実習/生化学実習</p> <p>栄養指導論I</p> <p>調理学実習II</p> <p>給食経営管理論</p>
①食品・栄養・人体に関する基礎的知識を習得している。 ②他者とコミュニケーションをとることができる。 ③教養・社会人マナーの必要性を理解している。 ④食と栄養に関わる現状を認識し、栄養士として貢献したいという“意思”を持っている。	1年前期	<p>基礎</p> <p>心理学/ビジネスマナー</p> <p>基礎化学実習</p> <p>基礎化学</p> <p>食品学I</p> <p>コンピュータ演習I</p> <p>調理学</p> <p>基礎栄養学</p> <p>解剖生理学I/生化学</p> <p>英語コミュニケーションI</p> <p>調理学実習I</p> <p>基礎栄養学</p>
	全学共通科目	<p>茶道文化I(社会人基礎入門A) /</p> <p>栄養士論I・栄養士論II</p>

カリキュラムポリシー (実施の方針)	対話型授業を～、アクティブ・ラーニングの～、法令と専攻事例によって～、課題発見と課題解決を～、多角的な成績評価によって～、シラバスによる目標・計画などの明確化、アクティブ・ラーニング、厳正な成績評価、GPA・ポートフォリオを用いた到達度の総合評価
-------------------------------	---

2018 食料科製菓コース
履修系統図

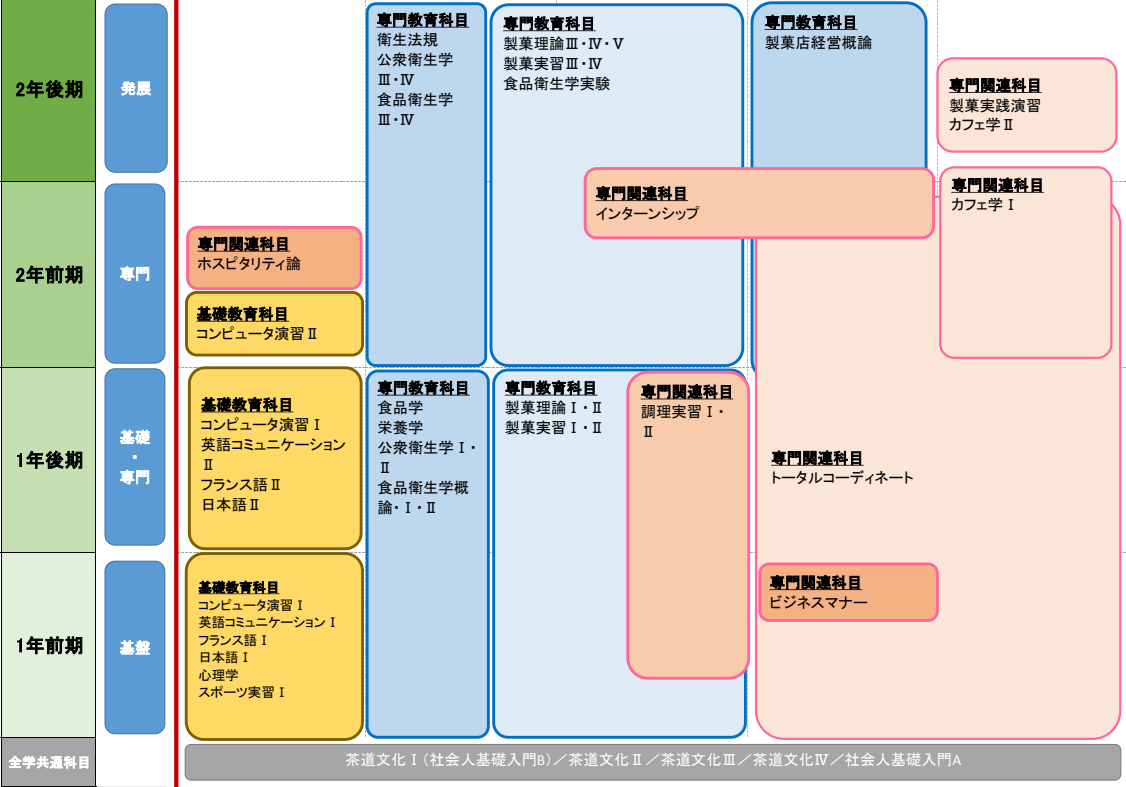
食料科製菓コースのディプロマポリシー

豊かな人間力 人間性と品格を備えた社会人として行動できる。	豊かな専門的知識や技能 製菓製造に関わる専門的知識や技能を身につけ、安定した菓子製造に使える。	コミュニケーション能力 菓子製造の場面での自分の役割を理解し、協働作業ができる。	課題解決能力 専門的知識・技能を応用し、課題解決のためのアイデアを構想し、実行で	主体的に学ぶ力 菓子製造に関する学習体験をもとに、自己のキャリアを主体的にデザイン
----------------------------------	--	---	---	--

カリキュラムポリシー (教育課程編成の方)

1. 基礎的な学力を身につけ、社会の出来事に関心をもち積極的に学び続けるために「茶道文化」「社会人基礎入門」などを配置する
2. 製菓製造に関わる専門的知識を身につけ、安定した菓子製造に使える包括的な理解ができるために「食品衛生学」「製菓理論」をはじめとする製菓衛生師専門関連科目を配置する
3. 製菓製造の場での自分の役割を理解し、協働作業ができるために「製菓実習」「調理実習」などを配置する
4. 専門的知識・技能を応用し、課題解決のためのアイデアを構想し、実行できるように「製菓店経営概論」「総合演習」「ビジネスマナー」などを配置する
5. 菓子製造に関する学習体験をもとに、自己のキャリアを主体的にデザインすることができるために「製菓実践演習」「カフェ学」などを配置する

セメスター到達目標
1 製菓衛生師として身に付けなければならない、専門的な知識の修得ができる (製菓衛生師国家試験合格) 2 菓子製造の中、スムーズに作業を進める上でお互いにサポートができるような声掛け、動きをとることができる 3 豊かな教養を身につけ、菓子製造の職業人として汎用性を身に付けていく 4 菓子製造を中心に食の演出ができる知識・技術を身に付け、自らが考えたお菓子を製造することができる 5 自らの考案した菓子製品が、対象のお客様のニーズに合った商品であるか、対する場にならわしいものであるか分析し、その結果に基づき改良につなげることができる
1 「食(菓子)」を提供する立場として食の安全性における重要性、さらに公衆衛生の向上に責任をもつことの大切さを理解することができる 2 協働作業を行う上で、どのような声掛けが有効であるか、また行動が必要であるかを理解することができる 3 文章作成などにITを活用することが出来るとともに、サービス業が必要とされる「マナー」を身に付けることができる 4 基本的な菓子に関して、確実に製造ができる知識と技術を身に付けることができる 5 作りたて菓子製品を実現させるためにどのような手法が望ましいか考え、製造することができる
1 社会における「食」にかかわる問題に意識を向け、安全な食品を提供することに理解を深めることができる 2 集団の中でより良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身に付けている 3 文章や言葉の要点をつかみ理解することができるとともに、その場にならわしい服装や言葉使いができる 4 多種多様な菓子材料、および製造機器などに対して理解を深め、適切な作業ができるようになる 5 自らの発見した課題、疑問点を解決する方法を探り、行動に移すことができる
1 「衛生」の定義や考え方について学び、菓子製造の立場から意義を考える習慣を身に付けることができる 2 笑顔で挨拶し、他者の言葉や気持ちを理解し、誰とでも気持ちよく付き合うことができる 3 教養の必要性を理解し自ら学ぶ姿勢を身に付け、更に日本の伝統や文化に関心を養うことができる 4 食材に対する基本を学びながら、菓子製造の基本技術を身に付けることができる 5 菓子製造する中で、疑問点や自らの課題を発見する習慣を身に付ける



カリキュラムポリシー (実施の方針)	講義を中心に、小テストや筆記試験などを道じて知識の定着を図る	アクティブラーニング	法令に準じて事例を用いる	法令に準じて事例を用いる	学生が主体となり課題を設け、実践を行う総合演習、課外活動
--------------------	--------------------------------	------------	--------------	--------------	------------------------------

2018 保育学科保育専攻
履修系統図

保育学科保育専攻のディプロマポリシー

人間性と品格を備えた社会人として行動できる	保育に関する専門的知識・技能を修得し、体系的な理解ができる	保育の対象を理解し、保育にかかわる様々な人々と協働する力を身に付けている	保育に関する専門的知識・技能を応用し、様々な課題を解決する保育実践力を身につけている	自己課題を探究し、地域の保育の発展と向上のために学び続ける力を身につけている
-----------------------	-------------------------------	--------------------------------------	--	--

セメスター到達目標	カリキュラムポリシー (教育課程編成の方針)	1 大学教育の学びの基礎を築くために、基礎教育科目を配属する	2 保育・教育の本質と目的、保育の内容と方法に関する科目を配属する	3 保育の対象の理解、当事者との協力や理解を深めるための科目を配属する	4 保育者としての問題解決能力を培うために、教育に関する科目や実習等の科目を配属する	5 保育者としての問題解決力や総合力を養うために、保育に関する科目や総合実習を配属する
豊かな感性を持ち、日常生活において社会常識のある行動ができる。実践的な経験を踏まえて、見通しをもって保育を計画・立案することができる。保育者の専門性を生かし、良好な人間関係を構築することができる。課題解決に向けて有効な解決策を構想し、実践する力を身につけている。保育者としての使命感を自覚し、自らの保育観を確立するために、常に学び続ける姿勢を身に付けている。	2年後期	<p>保育実践実習(修論実習)(必修)</p> <p>卒業研究Ⅱ</p> <p>総合保育技術Ⅳa/Ⅳb/Ⅳc</p> <p>教育方法論</p> <p>保育相談支援</p> <p>保育の心理学Ⅱ</p> <p>国際コミュニケーション演習Ⅱ</p> <p>保育内容演習Ⅰ(人間関係)</p> <p>教育方法論</p> <p>子どもと音楽Ⅱb(ピアノ・楽典)</p> <p>家庭支援論</p> <p>障がい児保育</p> <p>教育実習Ⅱ</p> <p>スポーツ実習</p> <p>保育実習Ⅲ</p> <p>茶道文化Ⅳ</p> <p>保育実習Ⅱ</p> <p>保育実習指導Ⅲ</p> <p>保育実習指導Ⅱ</p> <p>保育実習Ⅰ(保育所)</p> <p>教育実習Ⅰ</p> <p>実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)</p> <p>社会的養護内容</p> <p>教育原理</p> <p>総合保育内容Ⅱ(保育教材研究b)</p> <p>国際コミュニケーション演習Ⅰ</p> <p>保育内容演習Ⅰ(環境)</p> <p>子どもと音楽Ⅲa(ピアノ・楽典)</p> <p>相談援助</p> <p>総合保育技術Ⅱa/Ⅱb/Ⅱc</p> <p>保育内容演習Ⅰ(表現音楽)</p> <p>保育相談</p> <p>保育内容演習Ⅰ(表現造形)</p> <p>学級経営論</p> <p>臨床心理学</p> <p>子どもの保健Ⅱ</p> <p>スポーツ科学</p> <p>保育者論</p> <p>茶道文化Ⅲ</p> <p>卒業研究Ⅰ</p>				
他者の立場を尊重し、共感的に行動ができる。身に付けた知識と技能を子どもの発達段階に応じて保育に活用できる。相手の置かれた状況や気持ちを理解し、積極的に対応することができる。実習を通して、理論と実践の関わりを意識し、課題を分析して本質をとらえることができる。実習を踏まえて理想とする保育者像をイメージしながら自己分析を行い、自己課題を明らかにすることができる。	2年前期					
地域の一員としての自覚を持ち、計画性と自律性のある行動ができる。保育・教育に関する基礎的な学びを通して、保育現場に必要な知識や技術の重要性について理解する。他者の意見やアドバイスを柔軟に受け入れることができる。保育者の視点から解決すべき課題に気づき、必要な情報を収集し、整理することができる。地域社会への貢献と子どもを取り巻く環境・課題について関心を持ち、教育・保育との関係を理解することができる。	1年後期	<p>保育実習Ⅰ(施設)</p> <p>子どもと運動</p> <p>保育内容演習Ⅰ(音楽)</p> <p>総合保育技術Ⅱ</p> <p>子どもの食と栄養</p> <p>保育学特別演習</p> <p>子どもと造形b</p> <p>総合保育内容Ⅱ(保育教材研究a)</p> <p>子どもと音楽Ⅱ(歌唱)</p> <p>子どもと音楽Ⅱb(ピアノ・楽典)</p> <p>子どもの保健Ⅰb</p> <p>保育の心理学Ⅰ</p> <p>子どもの食と栄養</p> <p>乳児保育Ⅰ</p> <p>子どもの保健Ⅰa</p> <p>社会的養護</p> <p>女性学</p> <p>カリキュラム論</p> <p>女性学</p> <p>茶道文化Ⅱ</p>				
保育者を目指すものとして規則正しい生活習慣を維持することができる。子どもの健全な心身の発達を支援するために保育や福祉の基本理念を理解している。様々な立場の人に親しみをもって接することができる。子どもを取り巻く環境の変化や諸問題について関心を持ち、保育者の役割について理解することができる。子どもの育ちに関わる楽しさや喜びを知り、学ぶ意欲を高めることができる。	1年前期	<p>児童家庭福祉Ⅰ</p> <p>日本国憲法</p> <p>総合保育技術Ⅰ</p> <p>子どもと言語</p> <p>日本国憲法</p> <p>コンピュータ演習</p> <p>保育の心理学Ⅰ</p> <p>保育内容演習Ⅰ(健康)</p> <p>子どものリズム</p> <p>子どもの保健Ⅰa</p> <p>子どもと造形a</p> <p>社会福祉</p> <p>子どもと音楽Ⅰa(ピアノ・楽典)</p> <p>子どもと暮らし</p> <p>茶道文化Ⅰ</p> <p>実践英語演習</p> <p>英語Ⅰ</p> <p>社会人基礎入門A(地域と大学・A)</p> <p>保育内容総論</p> <p>保育原理</p>				
全学共通科目						
カリキュラムポリシー (実施の方針)		<p>教育内容・教育方法・学習方法については以下の通り定めます。</p> <p>(1) 教育内容 児童福祉法施行規則ならびに保育職員免許法施行規則を遵守し、教科科目や保育に関する専門科目を体系的に配列した教育課程の中で、必修科目や選択科目の内容に沿った教育を実施します。</p> <p>(2) 教育方法・学習方法 学期(セメスター)毎に、講義、演習、実習、実技を適切に配属し、実習実習科目にも授業、実習実習、フィールドワークなどのアクティブラーニング型授業の展開に努めます。学生の学び(学習成果)の増進と定着を促すために、各種の試験・課題・レポート等による多様な評価を行い、結果を迅速に学生にフィードバックするよう努めます。</p>				

2018 保育学科介護福祉専攻履修系統図

保育学科介護福祉専攻のディプロマポリシー

心豊かな人間力
人間性と品格を備えた社会人として行動
できる

確かな専門的知識や技能
介護福祉の専門的知識と技能を修得
し、体系的な理解ができる

コミュニケーション能力
介護が必要な人や家族、職場の同職種・
多職種及び地域の人とコミュニケーションす
ることができる。

課題解決力
(実践力)
専門的な知識や技能を用いて本人や家
族のエンパワメントを見出し、自立を支え

主体的に学ぶ力
自分の介護観や理想とする介護福祉士
像になるためにキャリアデザインすること
ができる。

セメスター到達目標

カリキュラムポリシー
(教育課程編成の方

- 1 人間力を養うため、「茶道文化」「社会人基礎入門」をはじめとした基礎科目、「人間の尊厳と自立」「人間関係とコミュニケーション」「介護の基本」などの専門科目を配置する
- 2 専門的知識と技能を養うため、介護の領域として「介護の基本」「生活支援技術」など、こころとからだのしくみの領域として「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」など、人間と社会の領域として「社会の理解」など、順次性と系統性を考慮しながら配置する
- 3 コミュニケーション能力を養うため、基礎的な知識の習得を目指して「コミュニケーション技術」を配置し、また、コミュニケーション能力を発揮する機会として「介護実習」を配置する
- 4 課題解決能力を養うため、「介護過程」を配置し、「介護の基本」「生活支援技術」といった知識と技能の習得に関する科目と「介護実習」をつなぐ
- 5 主体的に学ぶ力を養うため、実習前後の準備と事例研究の作成を行う「介護総合演習」と59日間の「介護実習」を配置する

2年後期
1 介護の職業人としての基本的な素養を身につけている
2 生活課題を系統的に判断して、具体的な介護目標を設定することができる
3 積極的な関心、適切な関与により介護が必要な人の潜在能力を引き出すことができる
4 実習等で得られた課題を適切に判断して介護を実践することができる
5 介護福祉士としての職業倫理を尊重し、研鑽を積むことができる

2年前期
1 介護が必要な人の人間関係における複雑な思いに適切に配慮し、信頼関係を築くことができる
2 介護の流れを理解し、対象者に合わせた介護を導くことができる
3 記録や報告等の文書の作成を適切に行うことができる
4 実習等において解決すべき課題を発見し、介護実践することができる
5 介護福祉士の社会的役割と倫理について認識し、地域とつながる大切さを理解できる

1年後期
1 周りの人に対する思いやりをもって関係を作ることができる
2 基礎的な介護福祉の知識・技能を理解・習得することができる
3 自分自身の理解に努めるとともに、相手を理解することができる
4 介護に関する課題を見出し、それについて考察・意見を述べることができる
5 介護が必要な人の思いを理解し、家族・地域・社会との関係性にも視野を広げることができる

1年前期
1 興味を持って意欲的に学習し、学び続ける態度を身につけている
2 基礎的な介護福祉の知識・技能の必要性を理解し、説明することができる
3 コミュニケーションにおける信頼関係構築の重要性を認識し、状況に応じて適切な挨拶や言葉づかいができる
4 介護福祉に関する様々な事象に関心を持つことができる
5 人権擁護の視点を大切にし、人間理解の基本的な姿勢を身につけている

習熟

応用実践

基礎実践

基礎理解

全学共通科目

カリキュラムポリシー
(実施の方針)

対話型授業を～、アクティブ・ラーニングの～、法令と専攻事例によって～、課題発見と課題解決を～、多角的な成績評価によって～、シラバスによる目標・計画などの明確化、アクティブ・ラーニング、厳正な成績評価、GPA・ポートフォリオを用いた到達度の総合評価



- 人間と社会
- 介護
- 実習
- こころとからだのしくみ
- 医療的ケア
- 基礎教育科目(選択)

2018 国際コミュニケーション学科 履修系統図

国際コミュニケーション学科のディプロマポリシー

Table with 5 columns: 心豊かな人間力, 専門的知識や技能, コミュニケーション能力, 課題解決能力, キャリアデザイン力

Main curriculum table with columns: セメスター到達目標, 履修年次, 履修学期, 履修単位数, 履修科目, 履修内容, 履修到達目標, 履修到達手段, 履修到達評価

カリキュラムポリシー (実施の方針)

対話型授業を～、アクティブラーニングの～、法令と専攻事例によって～、課題発見と課題解決を～、多角的な成績評価によって～、シラバスによる目標・計画などの明確化、アクティブラーニング、厳正な成績評価、GPA・ポートフォリオを用いた到達度の総合評価

2018 専攻科保育専攻
履修系統図

専攻科保育専攻の
ディプロマポリシー
(修了認定・学位授
与の方針)

I 知識・専門技術・理解（文化、社会、自然、等）
豊かで幅広い教養を身に付けている。
保育に関する専門的知識・技術を修得し、子どもを取り巻く環境を社会認識によってとらえ正しく理解している。

II 汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）
保育の様々な場面で問題を多角的かつ根源的に理解・分析し、解決していく力を身に付けている。

III 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）
地域の発展・向上に寄与する使命感を持ち、協働の意識とマナーを身につけ、保育の現場を支えることができる。

IV 総合的な学習経験と創造的思考力
体系的な学習と現場での経験を保育実践力として総合し、保育の様々な課題を探究し続ける思考を持っている。

セメスター到達目標	カリキュラムポリシー (教育課程編成の方針)	1 保育現場において活用する語学とPC操作の科目を配置する。 保育職の意義、保育の基礎理論、幼児の理解および幼児の活動を支援する方法に関する科目を配置する	2 保育実践力を培うための科目を配置する	3 幼児を取り巻く社会状況の認識や精神文化についての科目を配置する	4 課題探究と総合的保育力を向上させるための科目を配置する
-----------	---------------------------	--	----------------------	-----------------------------------	-------------------------------

1 豊かな教養を身に付けている。
算数の教科、発達障害、音楽・造形表現に関する知識・技術を修得している。
2 障害者福祉の技能をふまえ、インターンシップを通じて保育職業人のスキルを身に付けている。
3 地域社会に貢献する意義を理解している。
自己肯定感を持つと共に、他者の言葉や気持ちを理解し、思いやりを持った行動ができる。
4 保育現場において論理的な学びの成果を実践できる。
保育の課題について研究した内容を、適切な方法で社会に伝達することができる。

2年後期

総まとめ

1 外国語、体育の強化、教育課程、音楽表現の保育内容、保育相談に関する知識・技術を習得している。
2 家庭援助、世代間交流、看護をふまえ、インターンシップを通じ保育の問題について多角的な視野をもって解決することができる。
3 保育職の社会的役割や倫理について認識している。
積極的な行動意思と協調性を併せ持ち、集団において仲間と協働することができる。
4 保育の課題について適切な方法で分析をおこない、考察することができる。

2年前期

探究

1 情報機器の操作、生活・音楽の教科、保育経営、人間関係・言葉の保育内容、心身の発達と学習過程に関する知識・技術を修得している。
2 児童文化をふまえ、インターンシップを通じて保育を根源的に理解することができる。
3 保育職として貢献していく意思を持っている。
集団の中で適切な方法で意見交換をおこなうことができる。
4 保育の課題について必要な情報を収集するとともに仮説をたてることことができる。

1年後期

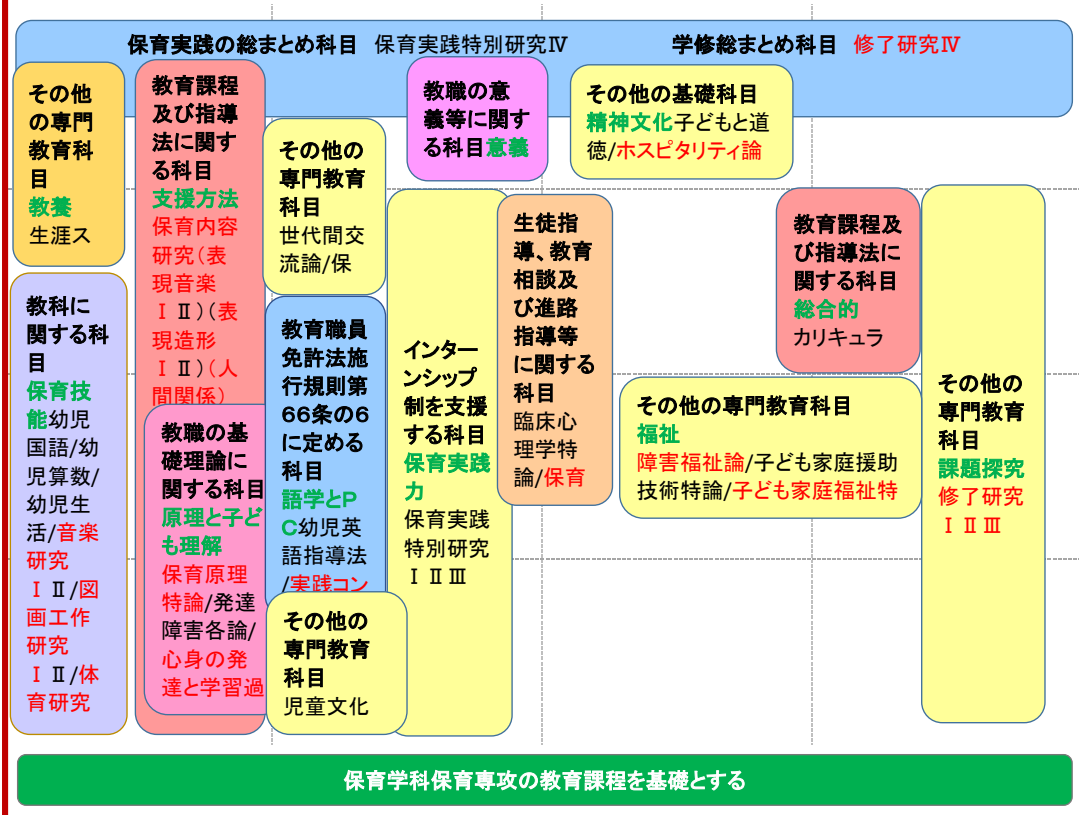
1 短期大学における学び、また実務経験からの保育の理解を定着させている。
音楽・図画工作の教科、教職の意義、環境の保育内容に関する知識・技術を修得している。
2 家庭福祉をふまえ、インターンシップを通じて保育の様々な場面での考察ができる。
3 献身的精神を持っている。
集団の目的とルールを理解し、自らの役割を遂行することができる。
4 保育の様々な場面の中から自らの課題を抽出することができる。

1年前期

展開

保育学科
保育専攻

基礎



カリキュラムポリシー
(実施の方針)

教育内容・教育方法・学習方法については以下の通り定めます。
(1) 教育内容
全学共通の教養科目や各学科の専門科目を体系的に配列した教育課程の中で、必修科目や選択科目の内容に沿った教育を実施します。
(2) 教育方法・学習方法
学期(セメスター・クォーター)毎に、講義、演習、実習、実験、実技を適切に配置し、全授業形態を通してアクティブラーニング型授業の展開に努めます。
学生の学び(学修成果)の確認と定着を促すために、各種の試験・課題・レポート等による多元的な評価を行い、結果を迅速に学生にフィードバックするよう努めます。